

科目名	人文学講読演習Ⅲ 1 1 - 1					単位	2.0
担当教員	権田 浩美						
授業形態	演習	開講期間	前期	配当年次	2	授業番号	4327

●授業のテーマ

郷土の詩人丸山薫の芸術世界

●到達目標

昭和初期の有力紙雑誌『四季』において活躍した丸山薫は、生涯を通じて、詩人としての立場もあり、自身を「エトランゼ（異邦人）」と規定し続けてきた。しかし、暮らした年月でいえば愛知県が丸山の〈故郷〉であったことは明らかである。郷土の詩人でもある丸山薫の芸術世界（詩や小説）の豊かさ、その魅力的な作品世界の成り立ちの秘密を解き明かし、詩を自身の言葉と感性で鑑賞できるようにする。

●学習内容（授業概要）

昭和初期の有力紙雑誌『四季』において活躍した丸山薫は、多感な少年時代を母方の父祖の地である愛知県豊橋市で過ごしている。また、戦後間もなく再び豊橋市に移り住み、亡くなるまでこの地で過ごした、愛知県に縁の深い詩人である。

昭和初期『四季』派の中核として活躍した丸山は、大正後期から昭和初期の新興芸術の影響下で生み出された独特の「物象詩」によって詩史にその名を刻んでいる。しかしながら、丸山には詩だけでなく、優れた掌編・短編小説もあり、二つのジャンルは互いに響きあいながら、時代の中で魅力的な作品として輝きを放っているのだ。

丸山薫という芸術家の個性が最も輝いていた戦前の芸術世界を中心に、その成り立ちを踏まえたうえで、丸山薫の詩を受講者各々の感性と言葉で鑑賞し表現する楽しみを体感してもらいたい。

●学習内容（授業計画）

≪前期≫

1. 授業のガイダンス
2. 丸山薫の生涯
3. 〈オトギバナシ〉文学の主張と時代背景
4. 丸山薫の掌編小説
5. 第3詩集『幼年』の詩世界
6. 第1詩集『帆・ランプ・鷗』の詩世界
7. 第2詩集『鶴の葬式』の詩世界
8. 主知的抒情詩の時代へ
9. 丸山薫の詩世界・鑑賞その1
10. 丸山薫の詩世界・鑑賞その2
11. 丸山薫の詩世界・鑑賞その3
12. 丸山薫の詩世界・鑑賞その4
13. 丸山薫の詩世界・鑑賞その5
14. 丸山薫の詩世界・鑑賞その6
15. まとめ

* 授業の進度によって順序や取り扱う内容・作品をかえる場合があるので予め了承されたい。

●準備学習・事後学習の内容

授業の際に指示する作品や資料を、次の授業時間までに必ず精読してくること。
また、適宜求める小レポートや感想などの課題に真摯に取り組み、必ず提出すること。

●成績評価方法・基準

出席状況や受講態度（発表内容や発言）、授業中に随時提出してもらった小レポートや感想—60%
学期末の小テスト、あるいはレポート—40%

●テキスト（必携）

必携

《No.1.》書籍名：「現代詩文庫 1036 丸山薫詩集」、著者名：丸山薫、出版社：思潮社、販売先：(株)Do

●参考文献／その他

権田浩美著『空の歌—中原中也と富永太郎の現代性—』（翰林書房）の他は、適宜紹介する。

●履修上の注意

自分の発表の際はもちろん、他者の発表に際しても誠実かつ真摯に臨み、積極的に発言すること。